

令和7年度以降の取組みの方向性

<本日議論いただきたいこと>

ウェルビーイング向上に向けたこれまでの取り組みや最近の動向などを踏まえ、

来年度(今後)どのように取組みを進めていくか

(その他、お気づきの点等についてご示唆を賜りたい。)

<基本的な考え方(案)>

(これまで)

検討課題やそれに対応した取組みを「選択と集中」により、分野重点化

(具体的には) ①若者・子どもを取り巻く“つながり実感”を充実

②働く人すべてがいきいきと“働きがい”を実感できるウェルビーイング経営を推進

(今後の方向性)

県政のすべての部門において、ウェルビーイング向上効果等を勘案

して施策を検討 (ウェルビーイング指標を活用し、予算を企画・立案)

するプロセスを確立・浸透させていく

「分散と深化」により、組織内での「仕組み化」を図る

『ウェルビーイング指標を活用した課題抽出・取組検討(効果検証)』[※]

… この「手法・プロセスの推進自体」を重点的取組みとする。

※主観指標 (富山県ウェルビーイング指標) は今後、データを蓄積し、他の客観指標等とも組み合わせつつ、長いスパンで検証していく必要。

ウェルビーイング指標を活用した取組みを更に浸透

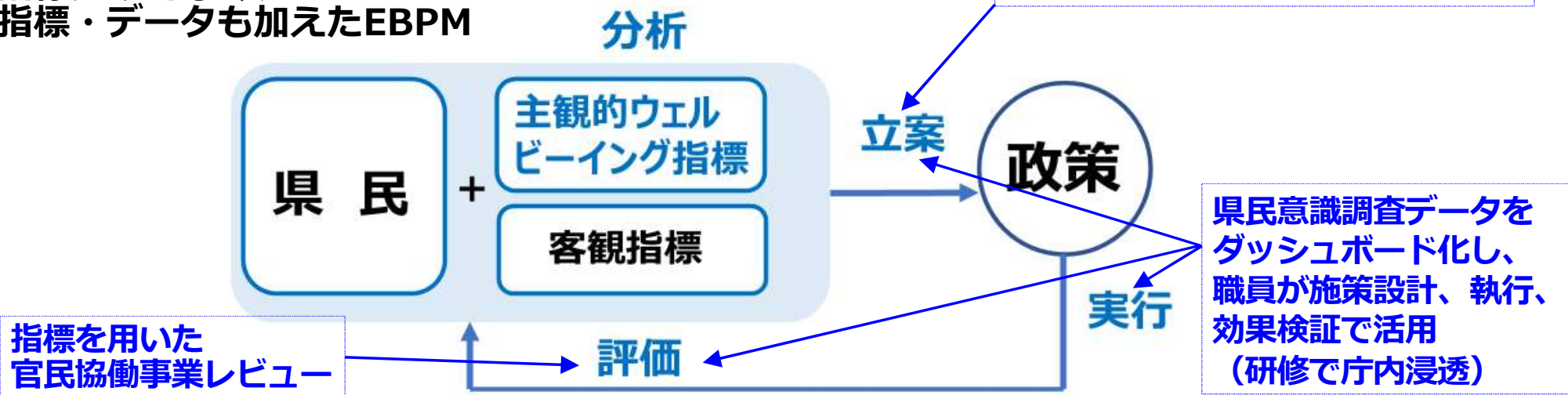
県にとって（最終）目的である
住民福祉の増進（県民の幸せ、
ウェルビーイングの向上）

に繋がる論理的な政策立案・展開

↓
客観指標だけでなく、
主観指標・データも加えたEBPM

県職員人材育成・確保基本方針
県職員行動指針において明記

すべての部門で
ウェルビーイング向上効果等を勘案
特に、施策設計図を活用し
部局横断で施策をパッケージ化



県民意識調査データを
ダッシュボード化し、
職員が施策設計、執行、
効果検証で活用
(研修で庁内浸透)

(その他にも)

- ▶ 状態・動向把握のための意識調査の継続実施 ⇒ R6調査については現在集計・分析中
- ▶ ウェルビーイングの更なる普及促進 ⇒ 言葉の認知だけでなく、県民の納得感や意識・行動変容、実感向上につなげる

さらなる庁内浸透に向けた取組み ～ウェルビーイングを起点とした施策形成～

1. 環境面

PowerBI によるダッシュボード構築

【BI (Business-Intelligence) ツール】

企業や組織が持つデータを分析することで、さまざまな業務や経営に役立てるデータ活用支援ツール

<再掲>

意識調査結果データをグラフや図表等でビジュアル化して表示できる環境を整備中

- ⇒ ・個々の職員が複数属性（性別×年齢など）の回答結果データを、自由に活用
（昨年はWB課が要素を抽出、担当課に提供。担当課が得られる情報が限定的だった）
- ・主観的WB指標データの利用 ⇒ 政策の立案・執行・検証へのさらなる活用を期待

2. 日常的な職員の意識・能力面

職員向け実務的研修の充実

WBに特化した個別研修だけでなく、役職や採用期間により受講が必須となる単位制研修や繰返し研修においてもウェルビーイング指標に係る内容を取り入れ

- ⇒ ・職員の納得感を生み出すとともに、データ利活用能力を向上
- ・ワークエンゲージメントの向上にもつなげる

「1」および「2」などを通して、

（新たな取組みの創出、既存施策の再考、部局間連携の促進 ⇒ 職員の意識改革）

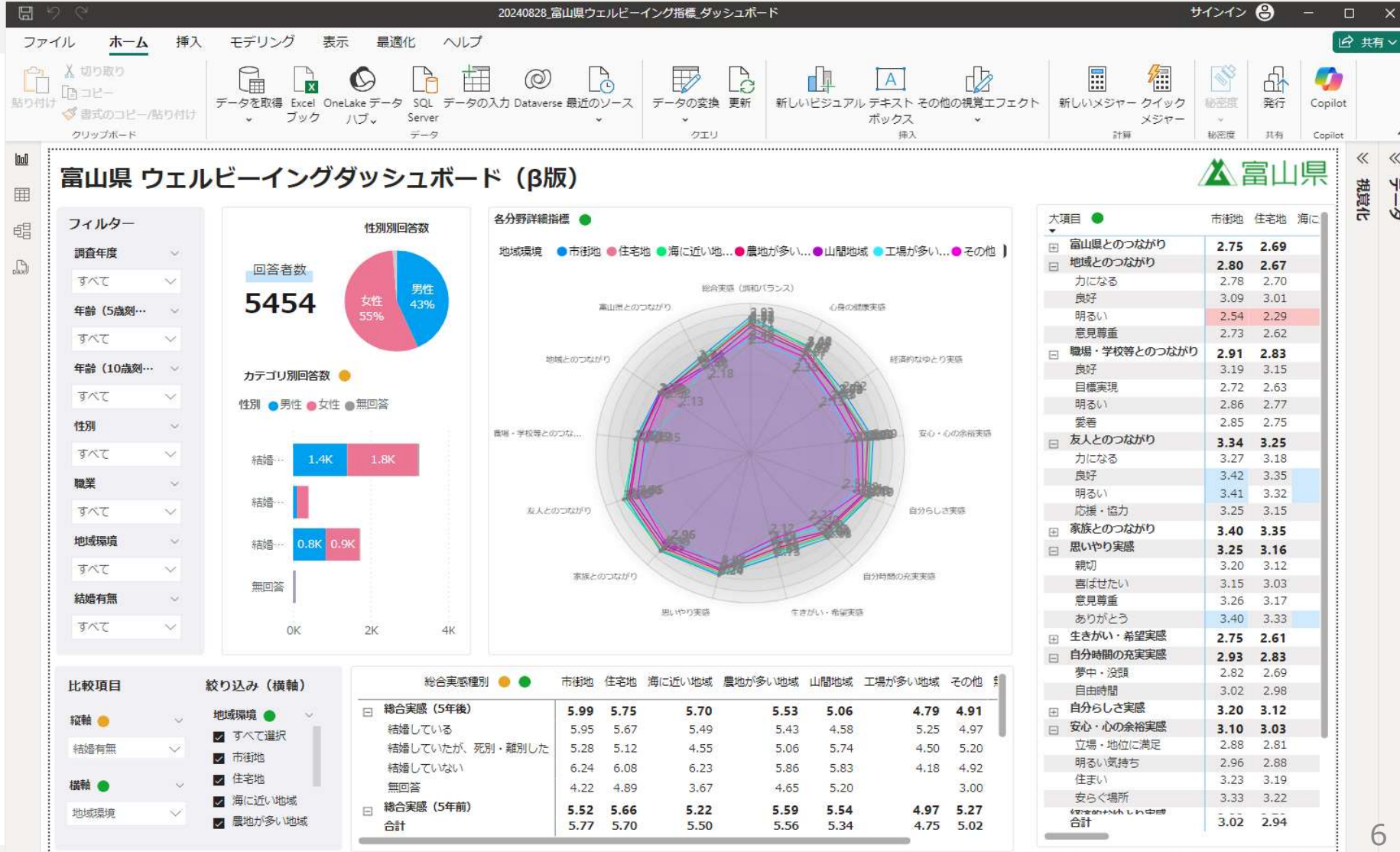
ウェルビーイング起点での政策形成の自走化、県民ウェルビーイングの向上につなげる

ウェルビーイング・ダッシュボード(現在構築作業中:以下はβ版イメージ)

ダッシュボード機能

☑ フィルター/期間選択などの操作により、データの見方の切り口を変えて、さまざまな切り口からデータを観察/分析できる

☑ ほぼリアルタイムにデータが更新される設定が可能であり、最新データを把握することが可能



<ウェルビーイング推進課の課題意識>

- どのような時間的視座の下、データを蓄積していくか？
（県民ウェルビーイングの変化を捉えるための調査の継続性や頻度）
- 主観指標の経年変化をどう捉えるか？
（年単位ではなく長いスパンでの検証の必要性）
- 主観指標と客観指標との併用をいかに図っていくか？
（具体施策へのより効果的な指標の活かし方）
- どのような具体施策展開が県民ウェルビーイング向上につながるか？
（体制や仕組みのあり方）